

官民連携基盤整備推進調査費 実施案件一覧

年度	年度-番号	調査名	実施主体	対象地域	概要	実施計画額 (千円)	
						事業費	国費
R6	6-1	新得町における地域活性化の拠点となる道の駅整備のための基盤整備検討調査	新得町	北海道新得町	十勝西部に位置し、道内有数のリゾート地であるサホロリゾートを有する新得町において、道東自動車道に「(仮称)新得スマートIC及びパーキングエリア」の設置が事業認可された。これに伴い、隣接して賑わいの場や観光情報発信の施設を整備することにより、更なる交流人口の拡大や地域の活性化につなげるため、新たな道の駅を建設することとしており、道の駅整備に係る基礎調査や概略設計を行う。	25,600	12,800
	6-2	石巻市総合運動公園を活用した地域活性化のための基盤整備検討調査	石巻市	宮城県石巻市	石巻市総合運動公園は、石巻市の中心部に位置し、市のスポーツ活動拠点となっている。平成23年の東日本大震災により、石巻圏域の陸上競技場がなくなり、地元で大会が開催できなくなっていたところ、地元からの陸上競技場の早期建設の要望を受け、市として交流拠点整備による地域活性化のため、民間事業者によるマルチユースイベント開催と合わせて、陸上競技場整備に係る基礎調査および整備計画作成、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	57,000	28,500
	6-3	(仮称)屋代スマートIC周辺での交通拠点整備による地域活性化のための基盤整備検討調査	千曲市	長野県千曲市	千曲市は、国道18号・403号が南北に走るなど、県内有数の交通の要衝であり、新たに(仮称)屋代スマートICの事業化が決定するなど、今後更なる交通需要や観光客が見込まれるなど、回遊性・利便性に課題があり、また、新たな観光需要の取り込みのためにも、該当地域周辺における民間投資に合わせて交通拠点整備に係る基礎調査や概略設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	16,000	8,000
	6-4	田子の浦港の新たなにぎわい創出に向けた基盤整備検討調査	富士市	静岡県富士市	田子の浦港は、富士市南部に位置し、富士山に最も近い港かつ複数の観光資源を有しており、令和元年には「みなとオアシス」に登録されるなど、市の重要な観光拠点となっている。一方で、観光拠点としての回遊性が課題となっており、課題解決のため、民間事業者のイベントや施設再整備と合わせて、歩行空間および公園整備のための基礎調査および整備方針の検討、PPP/PFI導入可能性検討を行うものである。	20,000	10,000
	6-5	津駅周辺エリア再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査	津市	三重県津市	「みえ県都」として三重県の中核を担う津市において、特に津駅周辺エリアは都市的サービスの中核と交通結節点としての役割を果たしている。一方で、エリア形成から半世紀が経過しており、施設の老朽化対策や駅東西の分断の解消、人口増加による需要増加への対応のため、駅周辺エリア一体となった大規模リニューアルが求められており、NHK津放送局建設や各民間事業者によるイベント開催に合わせて、駅前広場・自由通路・駐車場の基本計画策定や概略設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	16,000	8,000
	6-6	福山市における道の駅再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査	福山市	広島県福山市	「道の駅アリストぬまぐま」は、令和4年度に新たに設定された「ふくやまサイクリングロード」しおまち海道 沼隈サルート」沿いに位置し、また令和6年度末には隣接する隣の浦地区における新来トンネル開通するなど、今後更なる観光・交通需要が見込まれている。観光需要のさらなる取り込みや施設の老朽化対策のため、民間事業者によるイベント開催や地場産品の販売に合わせて、道の駅再整備に係る基本計画策定や概略設計等を行う。	18,700	9,350
	6-7	道の駅ソレーネ周南再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査	周南市	山口県周南市	道の駅「ソレーネ周南」は、周南市の西側に位置し、市の観光情報発信や農林水産物の振興を担っている。本道の駅への来場者数は、山口県内最多であるが、受入機能の不足が課題となっており、課題解決のために、民間事業者によるイベント開催等に合わせて、道の駅再整備に係る基礎調査および基本計画の検討、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	30,000	15,000
	6-8	瀬戸内海の難島観光拠点の再生に係る基盤整備検討調査	小豆島町	香川県小豆島町	「小豆島ふるさと村」は、島の中心に位置し、宿泊施設や道の駅および海の駅といった多様な施設が集積する小豆島の中でも観光客がよく訪れる場所となっている。一方で、施設の老朽化が課題となっており、早期の復旧とともに利便性向上、機能拡充のため、民間事業者によるイベント開催や周辺施設再整備に合わせて、港湾施設と道路施設の整備に係る基礎調査および概略設計、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	40,700	20,350
	6-9	松山駅周辺地区における広域交流拠点整備のための基盤整備検討調査	松山市	愛媛県松山市	松山駅周辺地区は、鉄道の高架化にあわせて、土地区画整理事業や街路事業などを行い、土地利用の増進や交通環境の改善のほか、賑わい、交流を生む「駅まち空間」の形成を目指している。一方で、市中部で文化や芸術活動の広域交流拠点施設が不足していることが懸念されることから、松山駅周辺で新たな広域交流拠点の整備が求められているため、土地区画整理事業や民間事業者による商業施設等の整備と合わせて、広域交流拠点施設整備に係る概略設計やPPP/PFI導入可能性検討を行う。	31,800	15,900
	6-10	水沢公園における賑わい創出のための基盤整備検討調査	奥州市	岩手県奥州市	水沢公園は、奥州市の中心市街地に位置し日本で最初期に整備された由緒ある公園であり、桜の名所としても知られ、毎年桜まつりが実施されている。一方で、公園施設全体の老朽化による魅力低下、来場者数減少が課題となっており、課題解決および市の賑わい創出の拠点とするため、公園の再整備を行うこととし、再整備に係る需要予測や整備効果の検討、概略設計およびPPP/PFI導入可能性検討を行う。	16,200	8,100
	6-11	道の駅「海の京都宮津」再整備によるエリア活性化のための基盤整備検討調査	宮津市	京都府宮津市	道の駅「海の京都宮津」は、宮津市の市街地かつ市内で最も賑わいのある「浜町エリア」に位置し、近隣施設を含めたウォーターフロントエリアとして、市の賑わい創出の拠点となることを期待されている。一方で、宮津市への観光入込客数に対して、施設規模を要とした道の駅への来場者数の伸び悩みが課題となっており、課題解決のために民間事業者によるパーク&クルーズ、農産物提供の拡充と合わせて、道の駅再整備に係る基礎調査や概略設計、整備効果検討およびPPP/PFI導入可能性検討を行う。	25,000	12,500
	6-12	生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査	生駒市	奈良県生駒市	奈良県と大阪府の県境に位置する生駒山麓公園は、市街地の近くにありながら、豊かな自然に囲まれ、また、市外からの利用も見込める側面があるとともに、園内には多様な施設を有しており、年代を問わず多くの利用者が訪れる公園となっている。一方で、コロナ禍以降の利用者減少や開設から30年以上経過した様々な施設の老朽化などが課題となっており、かつて以上の賑わいある魅力的な公園とするため、再整備に係る基礎調査や概略設計、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	22,900	11,450
	6-13	田野町道の駅「田野駅屋」再整備のための基盤整備検討調査	田野町	高知県田野町	田野町唯一の道の駅であり、国道55号沿いかつ田野駅と一体化した構造であることから、年間の来客者数は20万人を超える道の駅である。現在、道の駅付近に阿南安芸自動車道の整備が進められており、今後さらなる需要が見込まれることから、道の駅再整備による施設拡張を行うため、再整備に係る基礎調査や概略設計、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	17,200	8,600
	6-14	国見台公園総合整備における賑わい創出のための基盤整備検討調査	伊万里市	佐賀県伊万里市	国見台公園は、伊万里市の中央部に位置する公園であり、市のスポーツ拠点となっている。一方で、体育館及び武道館は供用から50年前後経過しており、老朽化が課題となっている。また、公園内においては、ウォーキング及びジョギングを目的とした地域住民の利用も多く、駐車場の不足や公園内外のアクセシビリティに課題があるため、民間事業者によるイベントの開催に合わせ、体育館及び武道館の再整備を核とした公園全体の再整備に係る概略設計及びPPP/PFI導入可能性検討を行う。	46,000	23,000
	6-15	宮津地区における道の駅再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査	上天草市	熊本県上天草市	道の駅「上天草さんばー」は、多数の観光地を有する宮津地区に位置し、天草地域の玄関口として市内外問わず利用者の多い道の駅である。一方で、施設内の休憩施設はレストランのみであり、海沿いの立地であることも活かしていないことが課題となっており、その解決に向けて道の駅再整備のための基礎調査や概略設計、PPP/PFI導入可能性検討を行う。	16,200	8,100
	6-16	東公園におけるにぎわい交流拠点形成に向けた基盤整備検討業務	福井市	福井県福井市	東公園は、福井駅から徒歩圏内にある公園であり、広大なスペースがあるにも関わらず、十分活用されていない。今年3月、福井駅では北陸新幹線が開業し、交流人口の更なる増加が見込まれることから、県内外からの来園者・市民双方にとって魅力のある、にぎわいや交流の新たな拠点とするため、東公園及び周辺道路の再整備に係る概略設計や調査、PPP/PFI導入の可能性について検討を行う。	32,400	16,200
計		16件				431,700	215,850

新得町における地域活性化の拠点となる道の駅整備のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 新得町は、十勝の最西部に位置し、道央・札幌市方面からの玄関口となっており、狩勝高原を中心に様々なアクティビティメニューと宿泊施設、温泉がそろった北海道でも有数のリゾート地であるサホロリゾートを有している。
- 新得町を通過している北海道横断自動車道は、札幌と十勝地域が直結した平成23年以降も、隣接する釧路・網走方面への延伸整備が進められており、今後も交通量の増加が見込まれている。
- 高速道路ネットワークの整備に伴い、令和4年9月には道東自動車道のトママICから十勝清水ICの間に「（仮称）新得スマートIC及びパーキングエリア」の設置が事業許可され、これに隣接して賑わいの場や観光情報発信の施設を整備することにより、さらなる交流人口の拡大や地域の活性化が期待されている。

【調査箇所：北海道新得町】
位置図



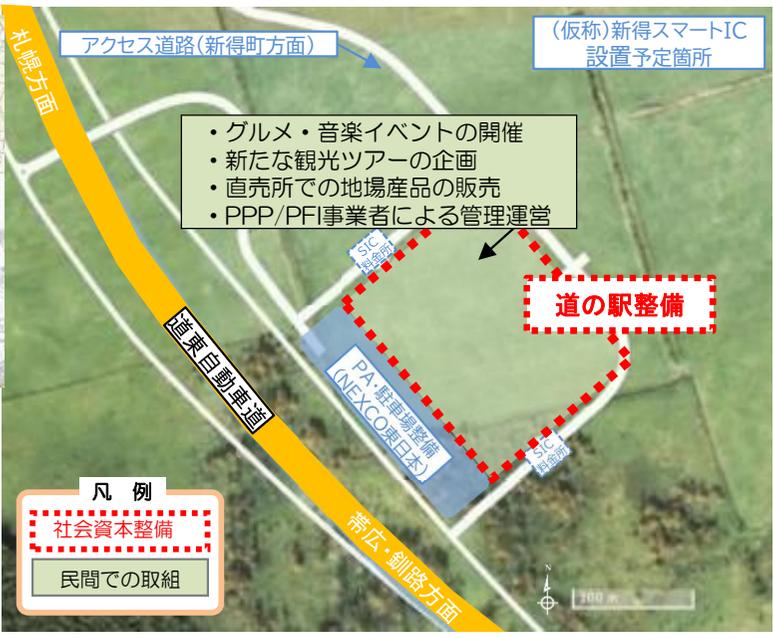
(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- 平成28年3月 「新得町第8期総合計画（平成27年度～令和7年度）」において、観光情報の発信や休憩など気軽に立ち寄れる道の駅の整備を進めること及び高速道路追加インターチェンジの整備実現のための取組を進めることを明記
- 令和3年3月 「第2期新得町まち・ひと・しごと総合戦略（令和3年度～令和7年度）」を策定し、道の駅検討を明記
- 令和3年4月 道の駅整備検討委員会による検討を経て、「新得町 道の駅整備基本構想」を策定
- 令和4年9月 国が、（仮称）新得SIC・PAの事業許可
- 令和5年4月 「新得町 道の駅整備基本計画」を策定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・タウンマネージメント（株）および新得町観光協会によるグルメイベント・音楽イベント等のにぎわい創出イベントの実施（令和12年度～）
- ・新得町観光協会による新たな観光ツアーの企画（令和12年度～）
- ・タウンマネージメント（株）による直売所での地場産品等の出荷・販売（令和12年度～）
- ・PPP/PFI事業者による道の駅的设计・建設・施設の管理運営（令和6年度～）

密接な
関連性



(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・ 新得町を通過する観光客を滞留させ、新得町への回遊を促すための周遊観光拠点施設が不足している。
- ・ 道央方面からの十勝エリアの玄関口に位置し、スマートIC及びPAに隣接した高速道路利便施設として、道の駅を整備することにより、新得町及び周辺地域の観光情報を発信するとともに、高速道路利用者の休憩機能のほか、地域住民も利活用できる賑わい、交流拠点としての場が求められている。

(4) 【調査内容】

① 道の駅（休憩施設、情報発信施設、駐車場、広場）整備に係る基礎調査、概略設計の実施

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・ 高速道路利便施設として道の駅での効果的な観光情報の発信や、イベント等の開催により、町民や観光客の交流が喚起され、あらたな消費が発生し、町内の経済活動の活性化が期待される。
- ・ 観光産業の売上増加、地域周辺を含めた雇用の創出



石巻市総合運動公園を活用した地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 石巻市は、宮城県北東部の太平洋沿岸地域に位置し、県内では仙台市に次いで人口の多い都市であり、石巻市総合運動公園は、市の中心部に位置し、周辺には「石巻専修大学」や「石巻市複合文化施設」が整備され、本市の教育・文化・スポーツ活動の拠点となっている。
- 本公園は、平成12年には市民球場やフットボール場が整備され、平成13年には第56回国民体育大会の会場（軟式野球、フットボール）として活用された他、県内プロスポーツ団体（プロ野球イースタンリーグ、Jサテライトリーグ）の試合が開催され、野球・サッカー教室やふれあいイベントなど、スポーツ振興の拠点としても活用されている。一方、運動公園としては陸上競技場の整備を残すのみであったが、平成23年の東日本大震災の発生により、陸上競技場整備を予定していた土地に仮設住宅が設置され、整備が不可能な状況となった。隣町の既設陸上競技場も、被災によって復興住宅が設置されたため、石巻市周辺で陸上競技を実施することは不可能となった。平成30年になり、本公園から仮設住宅が撤去され、競技場の整備が可能となると、地元からの整備要望や、スポーツ協会による請願がなされ、陸上競技場の早期の整備が求められている。

【調査箇所：宮城県石巻市】

いしのまき

位置図



石巻市

(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・平成23年3月 東日本大震災により、陸上競技場予定地に応急仮設住宅が建設（平成30年に撤去）
- ・令和元年6月 NPO法人石巻市スポーツ協会など5団体による請願受け、市議会で陸上競技場早期建設の実現に関する請願が採択される
- ・令和5年3月 陸上競技場基本構想を策定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・いしのまきスポーツコミッションによるスポーツツーリズム事業、マルシェの実施（令和12年度～）
- ・民間事業者によるサイクルイベントの開催（令和12年度～）
- ・PPP/PFI事業者による陸上競技場整備、公園全体の管理運営、収益施設（カフェ・スタジオ）整備・管理運営、イベントの実施（令和12年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・東日本大震災により、石巻圏域に公認陸上競技場が無くなり、石巻地区の大会が地元で開催できなくなっている。
- ・民間活力を導入し、スポーツ施設を核とした交流拠点の整備による地域活性化を図る必要がある。

(4) 【調査内容】

- ① 公園の再整備に係る基礎調査、整備計画作成
- ② 公園の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・スポーツ合宿や大会誘致による地域経済への好循環
- ・市民の日常的な利用を呼びこむ施設整備による賑わい創出
- ・本公園内や周辺地域への民間投資や取り組みの活性化

凡例

社会資本整備

民間での取組

公園（陸上競技場）の整備
（PPP/PFI導入可能性検討）

- ・スポーツツーリズム事業、マルシェの実施
- ・サイクルイベントの開催
- ・陸上競技場整備
- ・公園全体の管理運営
- ・収益施設（カフェ・スタジオ）整備、管理運営
- ・イベントの実施

総合文化施設

石巻専修大学

ツールド・東北



仮設住宅撤去前（2012年）



田子の浦港の新たなにぎわい創出に向けた基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 富士市南部に位置する田子の浦港は、昭和39年に重要港湾に指定されて以降、国際港として静岡県東部・山梨県の経済産業を支える拠点として発展した。また、富士山に最も近い港かつ他にも複数の観光拠点を有していることから、外国籍のクルーズ船寄港など県内外のみならず国外からも多くの観光客が訪れる拠点として、重要な役割を果たしている。
- 令和元年には、本港周辺拠点の漁協食堂・みなと公園・スポーツ公園が『みなとオアシス田子の浦』として登録され、各拠点がそれぞれにぎわいを見せている。一方で、周辺に休憩施設や拠点間を繋ぐ基盤がないため、回遊性に乏しく、エリア一体となったにぎわい創出が課題となっている。
- 上記の課題解決や今後増加が予想されるインバウンド需要のためにも、休憩施設整備や各拠点をつなぐ歩行空間および公園整備により、周辺地区と一体となったにぎわい空間である『プロムナードゾーン』の創出を目標としている。

【調査箇所：静岡県富士市】



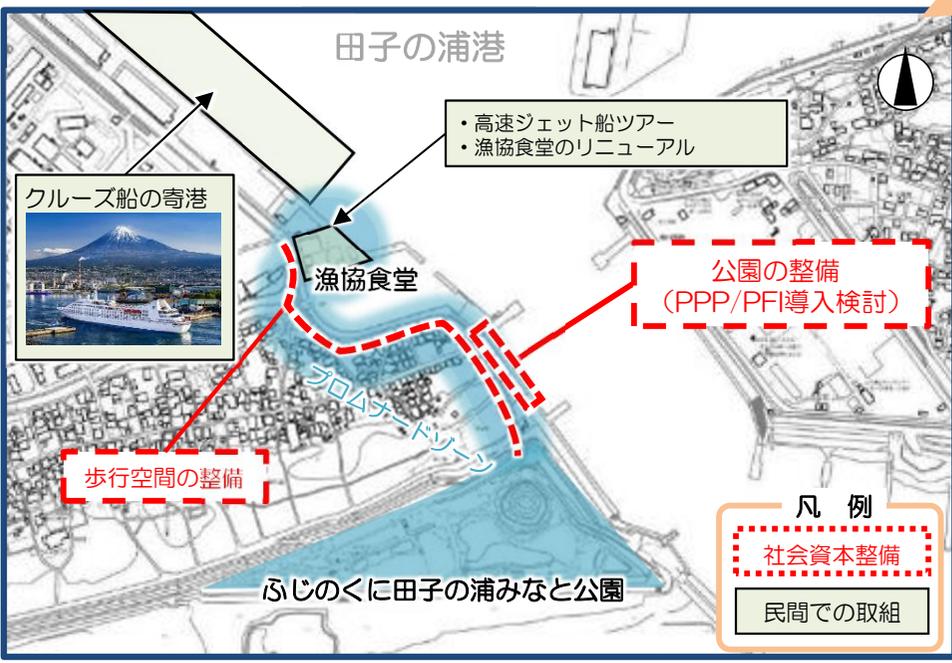
- ### (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- 平成25年6月 富士山が世界文化遺産登録
 - 平成26年3月 富士市都市計画マスタープランを策定
田子の浦港を賑わう魅力ある都市空間に位置付け
 - 平成30年3月 田子の浦港振興ビジョンを改訂
「プロムナードゾーン」を多くの人々が楽しめる新たなにぎわい創出の場所として位置付け
 - 令和元年11月 みなとオアシスに登録
 - 令和5年4月 外国客船が田子の浦港に初寄港

- ### (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定
- 旅行会社のチャータークルーズ船の寄港（令和5年度～）
 - 海運会社主催の高速ジェット船ツアー（令和6年度～）
 - 地元の協同組合による漁協食堂のリニューアル（令和10年度～）
 - PPP/PFI事業者による公園の整備、管理運営（令和9年度～）

クルーズ船寄港イベント



みなとオアシス田子の浦 構成施設



密接な関連性

- ### (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）
- 今後増加が予想される観光客に対応するための休憩施設が必要。
 - 周辺地区と一体となったにぎわい空間とし、プロムナードゾーンの創出に向け、課題である回遊性を向上させるための基盤整備が必要。

- ### (4) 【調査内容】
- 歩行空間および公園整備のための基礎調査
 - 歩行空間および公園整備のための整備方針の検討、イメージパースの作成
 - 公園の整備・管理運営にかかるPPP/PFI導入可能性検討

- ### (5) 民間の活動と一体的に整備する効果
- 民間投資による地域資源の拡充に併せて基盤を整備し、回遊性を向上させることで、相乗効果による面的な地域の魅力向上が見込まれ、関係人口が増加するなど、更なる地域活性化につながる。

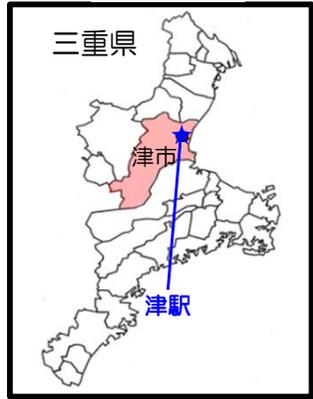
津駅周辺エリア再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 津市は三重県の中央に位置し、“みえ県都”として三重県の中核を担っている。特に津駅周辺エリアは、行政・商業・業務・教育・文化・医療・福祉・交流などの多様で高次な都市機能が集積し、市民や来訪者が都市的サービスを楽しむことができる中心地であるとともに、複数の路線が乗り入れる重要な交通結節点である。
- 一方で、津駅周辺エリアが形成されてから約半世紀が経過しており、施設の老朽化対策や東西エリアの分断の解消、西口エリアの住宅団地開発による人口増への対応など、施設の現状や利用実態に合わせた、駅周辺エリアの一体的なリニューアルが求められている。
- さらに、駅利用者が憩い滞留する空間が不足しており、新たなにぎわい創出の取組とあわせ、その拠点となる空間整備が求められている。
- こうした状況を踏まえ、地域の活力を引き出すことで“みえ県都”の顔となり、更なるにぎわいを創出できる空間とするため、官民連携による津駅周辺エリアの再整備を推進することとしている。

【調査箇所：三重県津市】

位置図



地下道の状況



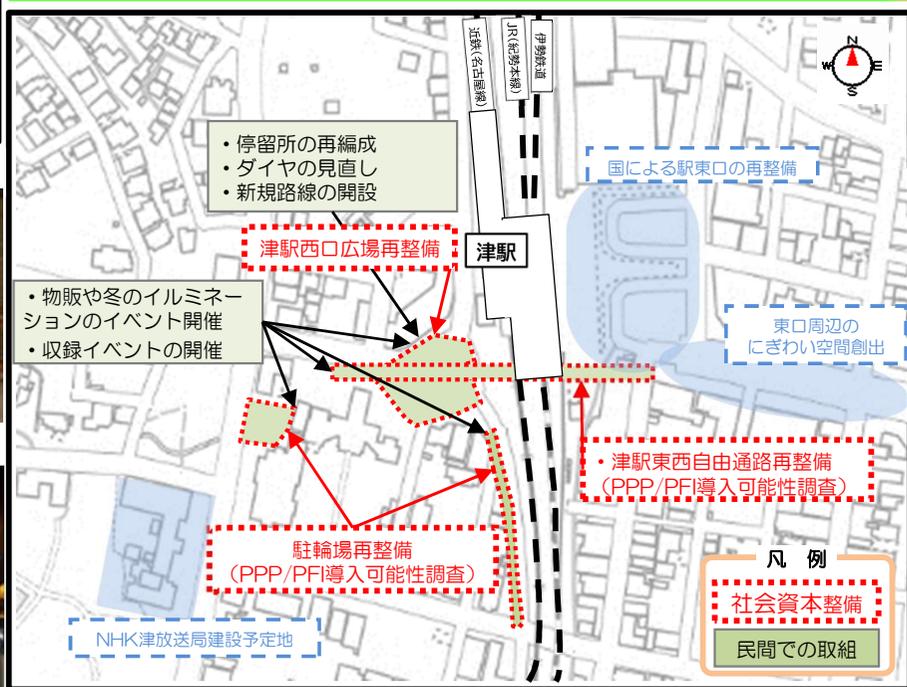
駅前広場の混雑状況



- ### (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- H29.12 津市総合計画策定（津市の土地利用の方向性として津駅周辺を津市の求心力を高める都市拠点とすることを明記）
 - H30. 3 津市都市マスタープラン策定（鉄道や民間バス等の接続強化など津駅周辺の都市拠点形成の具体的方針を明記）
 - R 4. 3 津駅周辺道路空間の整備方針 策定
 - R 5. 8 津駅東西自由通路 事業主体決定
 - R 5.12 民間による賑わい創出の実験
 - R 6. 3 津駅西口駅前広場の基本方針・基本構想策定
 - R 6. 3 津市道路整備計画の改訂（津駅東西自由通路の位置付け）

- ### (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定
- ・NPO法人等による物販や冬のイルミネーションのイベント開催（令和8年度～）
 - ・NHK津放送局による収録イベントの開催（令和8年度～）
 - ・三重交通（株）による停留所の再編成及びダイヤの見直し、新規路線の開設（令和10年度～）
 - ・PPP/PFI事業者による津駅東西自由通路・津駅西第一・二公共自転車駐輪場の再整備及び運営（令和10年度～）

密接な
関連性



- ### (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）
- ・車両混雑解消のため、津駅西口エリア再整備による安全確保が必要。
 - ・津駅をまたいだ東西の分断を解消するための自由通路の整備により、利便性の向上と駅周辺の人流促進が必要。
 - ・不足する駐輪場の再整備が必要。
 - ・津駅周辺において、イベント開催や滞留する空間が不足しており、広場等の整備によるにぎわいづくりが必要。

- ### (4) 【調査内容】
- ① 駅前広場、自由通路、駐輪場の基本計画策定および概略設計
 - ② 自由通路、駐輪場の整備・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

- ### (5) 民間の活動と一体的に整備する効果
- ・県都の玄関口である津駅周辺エリアの整備により、交流人口の増加や魅力あるまちづくりに寄与し、新たな価値の創造や地域活性化になる
 - ・民間の事業スキームを活かすことで、効率的かつ魅力的な基盤整備・管理運営が可能

福山市における道の駅再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 福山市（とも）地区は、瀬戸内海国立公園を代表する景勝地のひとつであり、古くは万葉集にも詠まれ、潮待ちの港として栄えてきた。2018年5月に日本遺産にも認定され、国の「重要伝統的建造物群保存地区」、ユネスコ「世界の記憶」と合わせて3つの評価を受けている国内唯一の町である。
- 令和5年には、本市福山港（鞆の浦）に外国クルーズ船が7回寄港するなど、外国人観光客が増加している状況にある。また、令和6年度末開通予定の鞆未来トンネルにより、鞆地区へのアクセス性が向上することで、さらなる観光客や交通量の増加が期待されており、本市としても観光資源の磨き上げを行うこととしている。
- 『道の駅アリストぬまくま』は、令和4年に新たに設定された「ふくやまサイクリングロード しおまち海道 沼隈サブルート」沿いに位置し、サイクリング・ツーリング等の観光客はもちろん、南部地域の住民の交流拠点としても、今後さらなるにぎわいが見込まれる。一方で、建設から約30年が経過するなど施設の老朽化が顕著であり、さらには近年の観光需要増加等の新たな需要の取り込みのためにも、道の駅の再整備に取り組むこととしている。

【調査箇所：広島県福山市】
位置図



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・ 令和5年11月 市議会常任委員会にて、道の駅アリストぬまくまの再整備の検討を表明
- ・ 令和6年2月 福山市令和6年度重点政策において、道の駅アリストぬまくまの再整備を位置づけ
- ・ 令和6年2月 道の駅アリストぬまくま再整備事業の予算を市議会へ上程

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・ 地元漁業者による漁師直送の地魚PR販売（令和12年度～）
- ・ 観光協会による新たな観光ルートの特設（令和11年度～）
- ・ 地元事業者による地場産品の販売やお土産の開発・販売（令和12年度～）
- ・ 地元事業者による周辺観光地と連携した観光客へのおもてなしイベントの開催（令和12年度～）
- ・ PPP/PFI事業者による道の駅の管理運営（令和12年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・ 今後増加が見込まれる観光客やサイクリングやツーリング客を取り込み、地区の更なるにぎわいづくりにつなげるため、再整備が必要
- ・ 建設から約30年が経過した施設や設備の老朽化への対応が必要

(4) 【調査内容】

- ① 道の駅（駐車場、休憩施設、地域振興施設、情報発信施設）整備に係る基本計画策定および概略設計
- ② 道の駅整備に係る基礎調査

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・ 観光入込客数の増加による地場産品等の消費拡大
- ・ 地場産品販路および消費拡大による地域経済の活性化
- ・ 民間事業者による良質なサービスの提供により、道の駅利用者と収益の増加

ふくやまサイクリングロード しおまち海道



老朽化した道の駅舎



- ・ 漁師直送の地魚PR販売
- ・ 新たな観光ルートの特設
- ・ 地場産品やお土産の開発・販売
- ・ 周辺観光地と連携したおもてなしイベント開催

凡例

社会資本整備

民間での取組

道の駅再整備

鞆の浦方面

道の駅ソレーネ周南再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

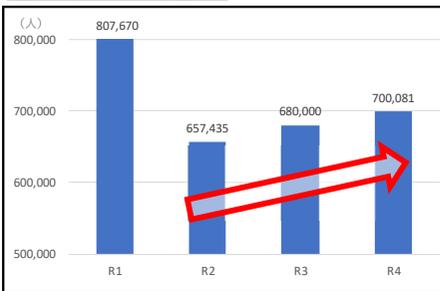
地域の特徴等

- 道の駅「ソレーネ周南」は、周南市の西の玄関口として、平成26年供用以降、観光情報の発信や農林水産業の振興の役割を担っている。平成28年には重点道の駅に選定され、バス停等の整備による交通結節点の機能が追加された。
- 本道の駅は、国道2号に隣接、山陽自動車道（徳山西IC）に近接しており、来場者数は山口県内の道の駅最多である。また、現在実施されている国道2号の拡幅工事により、防府市富海から周南市までのボトルネックが解消され、交通量の増加および道の駅へのさらなる来場者の増加が見込まれている。
- 一方、増え続ける来場者に対し、道の駅の受入機能不足が課題となっており、早期の施設再整備が求められている。

【調査箇所：山口県周南市】



道の駅 来場者数



道の駅 来場状況 (R1.5月.平日)



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・平成26年 国道2号の4車線拡幅整備開始
- ・令和 2年3月 周南市まちづくり総合計画において道の駅の機能拡充を決定
- ・令和 6年2月 リニューアルに向けた構想を公表

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・地元企業によるレストランの整備・運営、食の加工体験イベント実施（令和10年度～）
- ・非営利団体と大学による観光・健康イベント実施（令和11年度～）
- ・地元協議会による、交流イベントの実施（令和11年度～）
- ・PPP/PFI事業者による道の駅・公園の整備・管理運営（令和11年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・来場者数の増加が見込まれる中、道の駅の受入機能および休憩施設の早期整備が必要

(4) 【調査内容】

- ① 道の駅（駐車場、情報発信施設、物販施設）、公園整備に係る基礎調査および基本計画の検討
- ② PPP/PFIの導入可能性検討調査

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・民間活力の活用によるサービスの向上、集客の増加
- ・雇用の増加、売り上げの向上による地域経済の活性化
- ・観光客の増加による関係人口の増加や近隣地域の活性化



瀬戸内海の離島観光拠点の再生に係る基盤整備検討調査

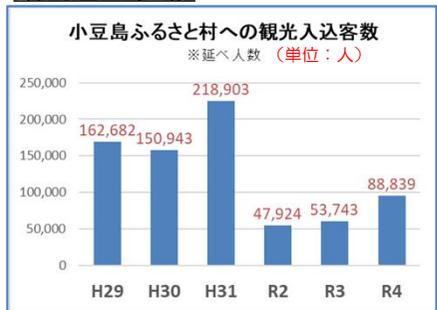
地域の特徴等

- 小豆島は、^{としょうちょう}土庄町及び小豆島町の2町によって構成され、コロナ禍以降地元観光事業者による様々な観光施策の計画及び実施により、2年連続で「世界の持続可能な観光地TOP100選」にも選出されており、コロナ禍により減じた観光入り込み客数は、現在は増加傾向に転じている。
- 「小豆島ふるさと村」は、島の中心部に位置し、高松港を結ぶ定期航路港（池田港）からも近く、宿泊施設（キャンプ舎）や道の駅および海の駅といった多様な施設が集積する島内随一の滞在型・参加型の観光レクリエーション施設であり、小豆島でも観光客がよく訪れる場所となっているが、一方で施設の老朽化が課題となっている。
- ビジター向け係留施設を有する観光施設として、隣接施設の再整備と連動し、海上交通やマリナクティビティ等が利用可能な再整備をすることで、離島振興拠点（交通・観光拠点）としての機能を発揮することを期待される。

調査箇所：香川県小豆島町



観光客の推移



老朽化した栈橋



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・平成31年2月「瀬戸内海クルーズ推進会議(第1回四国エリア会議)」
瀬戸内海全体でのクルーズ船受入環境の整備・港からの観光地へのアクセスの改善を推進する方向性を確認
- ・令和3年11月「小豆島ふるさと村将来ビジョン」策定
海の駅エリアを町として集中的に投資する事を決定
- ・令和6年2月「小豆島ふるさと村全体整備基本計画」策定
マリナー・釣り・マリナクティビティ及び地域産業拠点として再整備を決定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・地元漁業者による新たな漁業体験事業（令和7年度～）
- ・公共交通事業者による当該施設を経由した新規バス路線運行（令和6年度～）
- ・地元観光事業者による新たな島内観光ツアー、マルシェの実施（令和8年度～）
- ・PPP/PFI事業者による港湾施設の再整備、管理運営（令和10年度～）
- ・PPP/PFI事業者による宿泊施設の再整備（令和10年度～）
- ・PPP/PFI事業者による「道の駅」再整備（令和10年度～）

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・施設老朽化により栈橋の一部が利用不可となっており、早期復旧が必要
- ・海上交通拠点としての利便性向上と機能拡充が必要
- ・周辺エリアの整備事業および民間投資に合わせた早期の基盤整備が必要

(4) 【調査内容】

- ① 港湾施設整備に係る基礎調査および概略設計
- ② 道路施設整備に係る基礎調査および概略設計
- ③ 港湾施設に対するPPP/PFI導入可能性調査

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・民活導入も踏まえ港湾施設の基盤整備が実施されることで利便性が向上し、小型船舶等の利用が増加
- ・新たな旅行商品（ツアー等）への組み込み増加
- ・定期航路の旅客（従前）にとどまらず、クルーズ船等の新たな観光客層にリーチし、当該施設を通じた島内への誘客促進による島内観光入込客数増、観光・地場産業の売上増



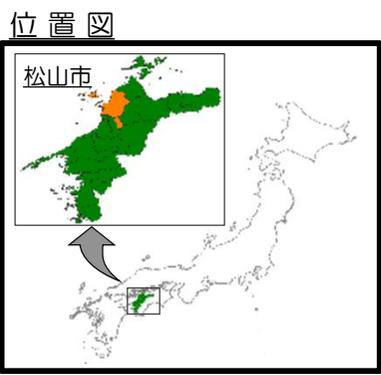
密接な
関連性

松山駅周辺地区における広域交流拠点整備のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- JR松山駅は、市民にとっても県内外の来訪者にとってもアクセスしやすく、四国の玄関口となっているが、駅周辺は来訪者の目的となる拠点施設が乏しく、これまで「通過点」に甘んじてきた。
- そのため、鉄道の高架化にあわせて、土地区画整理事業や街路事業などを行い、土地利用の増進や交通環境の改善のほか、賑わい、交流を生む『駅まち空間』の形成を目指している。
- こうした状況を踏まえ、市民にとっても県内外の来訪者にとってもアクセスしやすい松山駅周辺地区で、更なる賑わいを創出できる空間とするため、商業施設の整備等の民間活動と一体的に、官民連携による広域交流拠点施設整備を推進することとしている。

【調査箇所：愛媛県松山市】

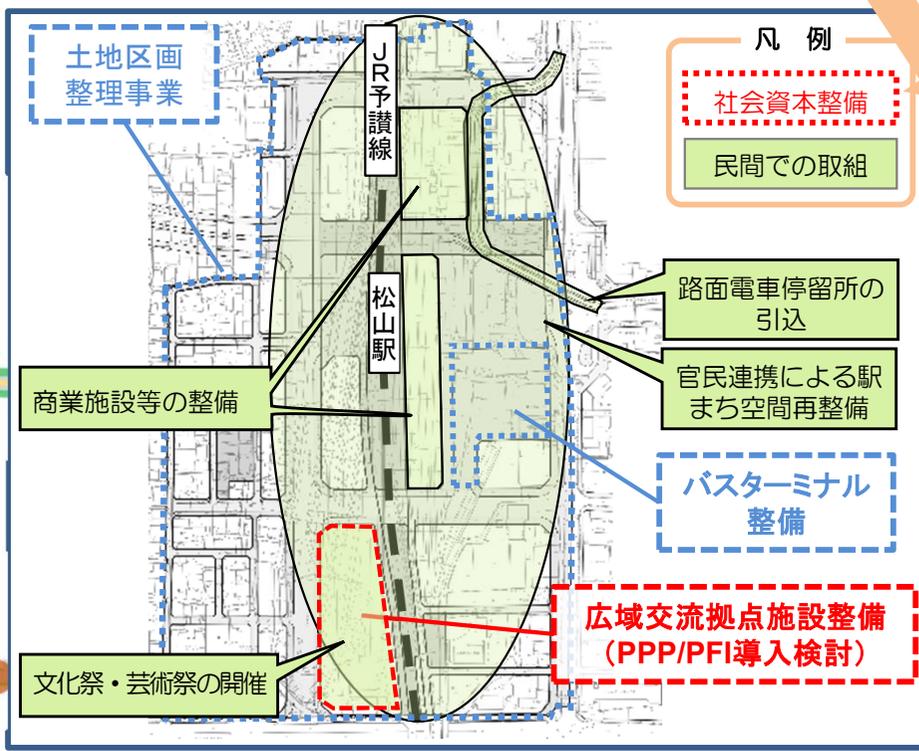


(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

平成20年6月 土地区画整理事業の事業計画の決定
 平成27年5月 車両基地跡地利用に関する基本構想の策定
 令和5年11月 「松山駅交通拠点機能強化整備方針」策定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・民間事業者による商業施設等の整備（令和8年度～）
- ・交通事業者による路面電車の駅前広場への引込（令和10年度～）
- ・民間事業者、松山アーバンデザインセンターとの官民連携による駅まち空間再整備（令和10年度～）
- ・文化団体による市民文化祭・芸術祭の開催（令和13年度～）
- ・PPP/PFI事業者による広域交流拠点施設の整備・管理運営（令和13年度～）



(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・市中心部で、文化や芸術活動の広域交流拠点施設が不足することが懸念される。
- ・市民にとっても県内外の来訪者にとってもアクセスしやすい松山駅周辺で新たな広域交流拠点の整備が求められる。
- ・土地区画整理事業等が進み、民間投資が期待されるタイミングで、集客力のある公共施設を整備する必要がある。

(4) 【調査内容】

- ① 広域交流拠点施設整備に係る概略設計
- ② 広域交流拠点施設の整備・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

交通施設と交流施設等の基盤整備を行うことで、駅を中心とした交流人口が増加し、民間の活動が促進され、駅まち空間の活性化が期待される。

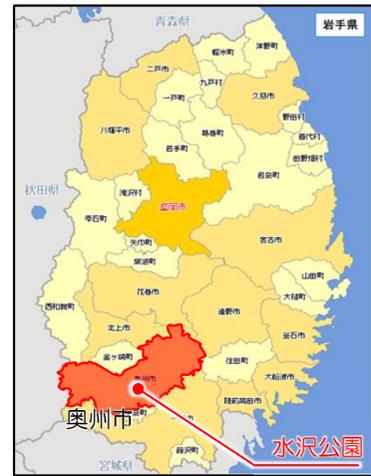
【賑わいや交流を生む駅まち空間のイメージ】

水沢公園における賑わい創出のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 水沢公園は、奥州市の中心市街地に位置し、1877（明治10）年に戸長（明治前期の行政事務責任者）小岩昌（さかり）等により提唱され、造園には旅絵師で造園家でもあった蓼虫山人（みのむしさんじん）が携わった、日本最初期の公園である太政官布達公園となった由緒ある施設である。また、桜の名勝としても知られ、岩手県天然記念物のヒガン系桜をはじめとした約400本の桜開花に合わせ、毎年桜まつりが実施されている。他にも本市の三偉人（高野長英、後藤新平、斎藤實）の銅像、著名人（芭蕉、正岡子規など）の歌碑など、歴史を物語る資源が園内のいたる所に配置されている。
- 一方で、公園施設全体の老朽化による魅力低下、および来場者数減少が課題となっており、市が目指す賑わい創出の拠点となるように、再整備が必要となっている。

【調査箇所：岩手県奥州市】
位置図

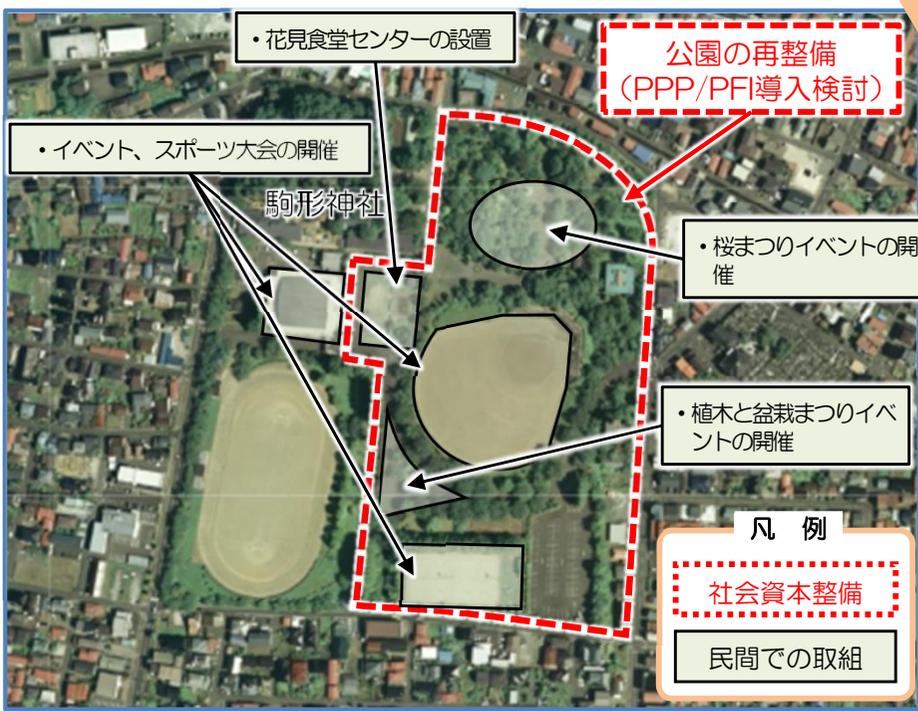


現況写真



- ### (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- 平成30年 水沢公園再整備構想を作成
 - 令和3年 公園施設の個別計画を作成
 - ・水沢公園の改修スケジュールを公表
 - 令和4年 都市計画マスタープランの検証
 - ・水沢公園を含む大規模公園の改修を明示
 - 令和5年 奥州市立地適正化計画を作成
 - ・水沢公園再整備を賑わい創出施策に位置づけ

- ### (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定
- ・民間食堂事業者による花見食堂センターを設置(令和12年度～)
 - ・地元観光物産協会による公園桜まつりの開催(令和12年度～)
 - ・緑化振興団体による緑を愛する植木と盆栽まつりの開催(令和12年度～)
 - ・スポーツ団体によるイベント・大会の開催(令和12年度～)
 - ・バス会社によるバス路線の見直し(令和12年度～)
 - ・PPP/PFI事業者による公園再整備および管理運営(令和12年度～)



- ### (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）
- ・施設全体が老朽化しており、公園の魅力が低下している。
 - ・賑わい創出の拠点となるためには、公園の再整備が必要。

- ### (4) 【調査内容】
- ①公園の再整備（遊具・園路・トイレ・駐車場）に係る需要予測、整備効果の検討、概略設計
 - ②公園再整備に係るPPP/PFI導入可能性検討

- ### (5) 民間の活動と一体的に整備する効果
- ・民間のノウハウを生かした公園の賑わいを創出
 - ・県南地域の先駆けとなるPark-PFI事業を進めることにより地域の知名度を上げ、観光の来訪者増加が見込まれる。

密接な
関連性

道の駅「海の京都宮津」再整備によるエリア活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

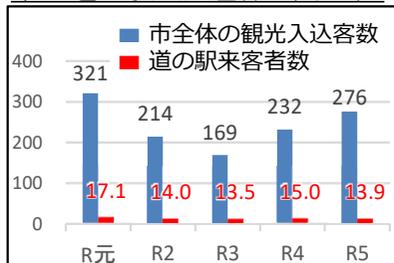
- 道の駅「海の京都宮津」は、日本三景天橋立を臨む眺望に優れ、宮津市から大阪市までを結ぶ国道176号への隣接、市街地で最もにぎわいのある「浜町エリア」という好立地に位置し、宮津市としても道の駅をはじめ近隣施設を含めた「ウォーターフロントエリア」としてさらなる活性化を図り、中心市街地のにぎわい創出へ波及させることを目標としている。
- 市の観光入込客数は増える中、道の駅への来客者数は横ばいが続く状況となっており、小規模な施設であることに起因する受入れ機能不足、立地のポテンシャルを生かしていないことによる道の駅への来客者数の伸び悩みが課題となっている。
- 近年、近隣の開発も進んでいることから、市の目標達成に向けた早期の再整備が求められている。

【調査箇所：京都府宮津市】

位置図



市・道の駅入込客数（万人）



現況写真



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- 令和3年度 第7次宮津市総合計画
→道の駅の活性化による中心市街地のにぎわい創出への波及
- 令和5年度 島崎・浜町ウォーターフロントエリア民間資金等活用事業可能性調査
→道の駅の拡張の方向性を市議会へ報告

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- 市・海の京都DMO・交通事業者が連携した天橋立観光船と立体駐車場を活用した天橋立パーク&クルーズ機能の拡充（令和11年度～）
- 地元生産者組合による農産物提供の拡充（令和11年度～）
- PPP/PFI事業者による道の駅の整備・管理運営、集客イベントやキッチンカー誘致（令和11年度～）

密接な
関連性

凡例

- 社会資本整備
- 民間での取組

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- 施設規模に起因する物販や飲食等の受け入れ機能が不足しており、市全体の観光入込客が増える中、道の駅への来客者数の伸び悩みが課題
- 道の駅の拡張とともに、公園エリアとの一体的な活用による利便性の向上と、機能性の向上が必要

(4) 【調査内容】

- 道の駅再整備に係る需要予測、概略設計、整備効果検討
- 道の駅再整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- PPP/PFI事業者の道の駅の整備・管理運営ノウハウ等を活かした来客者数、売上高の増
- 道の駅来客者の回遊による中心市街地のにぎわい創出
- 海の京都観光のゲートウェイとして、海上交通を活用した天橋立周遊観光ルートの構築、定着

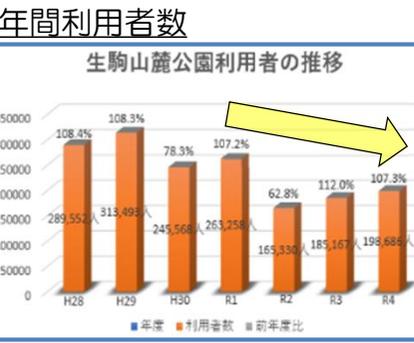
生駒山麓公園再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

○生駒山麓公園は、奈良県と大阪府の県境に位置し、金剛生駒紀泉国定公園の緑豊かな自然に囲まれ、公園内にはキャンプ場をはじめ、フィールドアスレチックや大型遊具施設があり、また園内のいたる所で年間を通して開かれる様々なイベントや、露天風呂付の宿泊施設もあって、年代問わず多くの利用者が訪れる公園である。

○一方で、コロナ禍以降の利用者数減少が課題となっているため、かつて以上の賑わいある公園への変貌を目的とし、メインターゲットであるファミリー層にとって、非日常が味わえ1日過ごせる施設・空間づくりや子供の成長に繋がる学びと体験が可能な施設とするため、公園施設の再整備を図る。

【対象箇所：奈良県生駒市】
位置図



- (1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- 令和3年6月 都市計画マスタープラン改訂
→生駒山麓公園の活性化を位置付け
 - 令和6年3月 第6次総合計画第2期基本計画策定
→市内の公園を、交流・滞在の場として活用可能な空間となるように整備することを明記
 - 令和6年5月 第6次総合計画第2期計画アクションプラン
→生駒山麓公園のあり方検討のスケジュールを公表

- (2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定
- 民間事業者による宿泊施設のリノベーション（令和7年度～）
 - 民間事業者によるアスレチック施設の新設（令和7年度～）、イベントの実施（令和10年度～）
 - 民間事業者によるイベント開催（令和10年度～）
 - 社会福祉法人によるイベント実施（令和10年度～）
 - PPP/PFIによる公園の再整備・運営、イベントの開催（令和10年度～）



- (3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）
- 公園の来場者数減少が課題となっており、課題解決のため公園の再整備が必要

- (4) 【調査内容】
- 公園の再整備（施設・園路・駐車場・遊歩道）に係る基礎調査（需要調査）・概略設計
 - 公園の整備に係るPPP/PFI導入可能性検討

- (5) 民間の活動と一体的に整備する効果
- 民間活力を導入した収益施設と一体的に公園を再整備することにより、公園の魅力向上につながり、利用者の増加や消費の拡大が期待される。

密接な
関連性

凡例

- 社会資本整備
- 民間での取組

田野町道の駅「田野駅屋」再整備のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 道の駅「田野駅屋」は、町内唯一の道の駅であり、県内交通の大動脈である国道55号沿いに位置し、「土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線」田野駅が隣接しており、道の駅と一体化している構造であることから、来場者数は年間20万人を超える。
- また、阿南安芸自動車道の整備が進んでおり、田野町への新IC整備が確定していることから、今後さらなる増客が見込まれている。
- 一方、現況の道の駅自体は、利用者数に対して施設面積と駐車場がともに不足している状況であり、今後の入込客数増加対策および利便性向上のため、早期の再整備が求められている。

【調査箇所：高知県田野町】

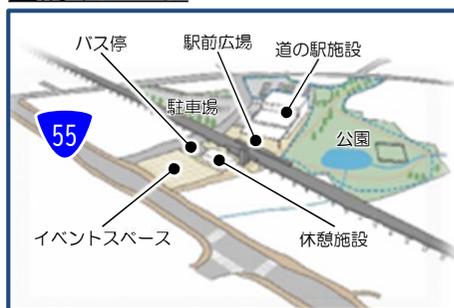
位置図



道の駅来場状況（R6.6月平日）



整備イメージ



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・令和2年度 田野町総合計画・総合戦略に道の駅田野駅屋の交流拠点機能強化として位置づけ。（H28年度～阿南安芸自動車道 奈半利～安芸 計画段階評価手続き）
- ・令和4年度 道の駅「田野駅屋」基本構想の策定
- ・令和6年度 道の駅「田野駅屋」再整備基本計画の策定
- ・令和6年度 阿南安芸自動車道の新IC計画が公表

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・地元商工業団体による集客イベントの開催（令和10年度～）
- ・地元の高校生による新商品の開発・販売（令和10年度～）
- ・鉄道会社による交通結節点化（令和10年度～）
- ・PFI事業による道の駅の再整備および管理運営、イベント（フリーマーケット、マルシェ）の開催（令和10年度～）

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・現状の利用者数に対して施設面積と駐車場が狭く、来訪者の受け入れ能力が不足している。
- ・今後高規格道路が接続されることから、さらなる入込客数が見込まれ、施設の再整備が必要となっている。

(4) 【調査内容】

- ①道の駅再整備にかかる基礎調査（需要予測、内水解析）、概略設計
- ②道の駅再整備及び管理運営にかかるPFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・道の駅の再整備と民間事業者のサービス提供による、道の駅利用者数及び売上高の増加
- ・民間事業者による定期的なイベントの実施により交流人口の増加



国見台公園総合整備における賑わい創出のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 伊万里市の中央部に位置する国見台公園は、市の基幹公園として位置づけられ、野球や陸上などの屋外競技、バレーボール、剣道などといった屋内競技まで、多様なスポーツが楽しめる市内のスポーツ拠点である。
- 昭和43年の公園設置以降、伊万里市民納涼花火大会をはじめ、市内の主要なイベントや国見台陸上競技選手権大会、伊万里ウオークの会場として利用されてきた。
- 一方で、供用から50年以上が経過したことによる老朽化が課題となっており、特に体育館と武道館は早期の再整備が必要となっている。
- また、健康づくりの場として、地域住民の利用が多く見られる中、駐車場の不足や公園内外のアクセスが課題となっているため、園路や管理道路も含めた公園全体のリニューアルを実施することにより、公園の魅力を上向きさせるとともに賑わいを創出する。

【調査箇所：佐賀県伊万里市】

位置図



駐車場不足状況



体育館の状況

(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- ・ R2年度 公共建築物個別施設計画の策定
- ・ R4年度 伊万里の公園の再生と利活用方針の作成
- ・ R4年度 第6次伊万里市総合計画の策定
- ・ R5.12、R6.4 事業検討、事業構想を議会に表明
- ・ R6.6 国見台公園総合整備基本計画の策定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- ・ 市バスケットボール協会、市剣道連盟によるスポーツ大会やスポーツ教室の開催（令和11年度～）
- ・ 県内を拠点とするプロスポーツチームによるスポーツ教室の開催（令和11年度～）
- ・ 高等教育機関による商品開発・販売の実施（令和11年度～）
- ・ PPP/PFI事業者による公園管理と運営（令和11年度～）

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- ・ 体育館、武道館の老朽化が進行している
- ・ 多くの利用者があり、駐車場の不足している
- ・ 市民ニーズが多様化する中、公園の魅力が不足している
- ・ 子育て環境の充実や安心・安全な憩いの場が求められている

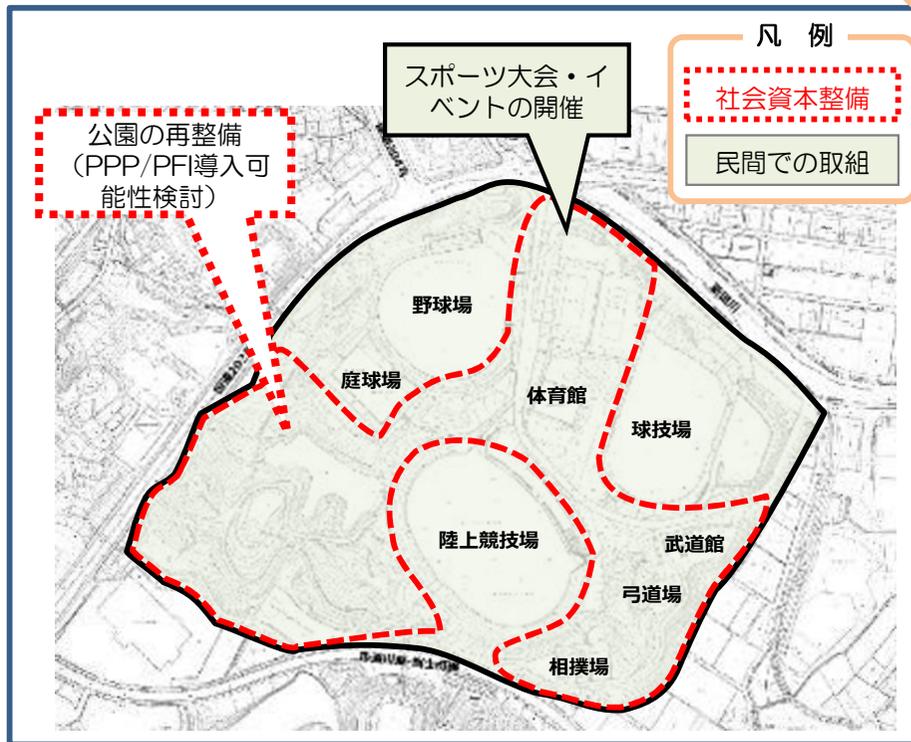
密接な
関連性

(4) 【調査内容】

- ① 公園施設（体育館、駐車場、園路、広場、トイレ、休憩施設、遊具）整備の概略設計
- ② 公園全体の管理・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- ・ 体育館の機能の充実によるスポーツ大会や多様なイベント開催による賑わい創出
- ・ スポーツ施設利用者、公園利用者の増加、それに伴うアクセス改善や駐車スペースの確保
- ・ 子どもの遊び場や市民の憩いの場の確保



宮津地区における道の駅再整備による地域活性化のための基盤整備検討調査

地域の特徴等

- 上天草市は、ほぼ全域が雲仙天草国立公園に含まれ、日本三大松島の一つにあげられる天草松島などの景勝地を有し、周辺自治体と広域観光の連携を進めるなど観光産業も盛んであり、道の駅「上天草さんばーる」は、温泉や資料館および図書館、スポーツ公園が集積する宮津地区に位置し、天草地域の玄関口として、市内外問わず利用者の多い施設である。
- 一方で、施設内に休憩施設となる場所がレストランのみと少なく、海沿いの立地を活かせていないことが課題となっており、観光客の立ち寄り場所としての機能強化が求められている。
- 課題解決に向けて、「道の駅」を再整備し、周辺の施設間の相互利用を促し、地域の回遊性や賑わいを向上させ、天草地域の周遊観光を促進する拠点施設となることが期待されている。

かみあまくさ

【調査箇所：熊本県上天草市】

位置図



(1) 社会的背景・状況の変化等（きっかけ）

- 平成25年 上天草市グランドデザインを策定
- 令和3年 宮津地区将来構想を策定
- 令和6年3月 上天草市第3次総合計画を策定
→道の駅を核とした宮津地区の整備を位置づけ
- 令和6年3月 宮津地区拠点施設整備基本計画を策定

(2) 民間事業者の活動・新たな投資・予定

- 農産物販売事業者による直売所の運営(令和11年度～)
- 商工団体等によるイベント開催(令和11年度～)
- 観光協会による観光情報発信(令和11年度～)
- PPP/PFI事業者による道の駅の整備・運営(令和11年度～)

密接な
関連性

(3) 基盤整備の必要性（現状の課題等）

- 熊本天草幹線道路（大矢野道路）が整備されることを見据え、観光客等の道路利用者に対する休憩場所の提供や地域の魅力を効果的に情報発信する体制が必要である。
- 幅広い世代の利用促進を図るため、若い世代や子育て世代向けの施設、機能が必要である。

(4) 【調査内容】

- 道の駅の再整備（駐車場、休憩施設、情報提供施設、地域振興施設、防災施設）に係る基礎調査（需要調査）、概略設計
- 道の駅の再整備・管理・運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

(5) 民間の活動と一体的に整備する効果

- 施設間の相互利用を促し、地域の回遊性や賑わいの向上
- ゲートウェイとして天草地域の観光に関する情報発信を行い、周遊観光の促進による観光客の増加

現況写真



整備イメージ



道の駅の再整備
(PPP/PFI導入検討)

- 直売所の運営
- イベントの開催
- 観光情報発信

凡例
社会資本整備
民間での取組

東公園におけるにぎわい交流拠点形成に向けた基盤整備検討業務

地域の特徴等

- 福井駅周辺地区は、交通結節点となる福井駅を中心に、商業・行政機能や歴史文化遺産、自然環境がコンパクトに集積されたポテンシャルの高いエリアであり、今年3月には、北陸新幹線福井駅が開業した。
- 福井駅から徒歩圏内にある東公園は、元々は市民球場であり、スポーツに親しむことができる施設として広く市民に利用されてきたが、老朽化により取り壊し、暫定的に緑の広場に整備した現在は、広大なスペースがあるものの活用しきれていない。今後、北陸新幹線開業による交流人口の更なる増加を見据え、県内外からの来園者・市民双方にとって魅力ある公園とするための整備が必要となっている。
- 北陸新幹線の開業や、東公園敷地内におけるアリーナの整備計画をきっかけとし、周辺道路を含めた東公園の再整備を行うことにより、まちなかの新たな機能としてにぎわいや交流の拠点となることが期待される。

【調査箇所：福井県福井市】



東公園の現況

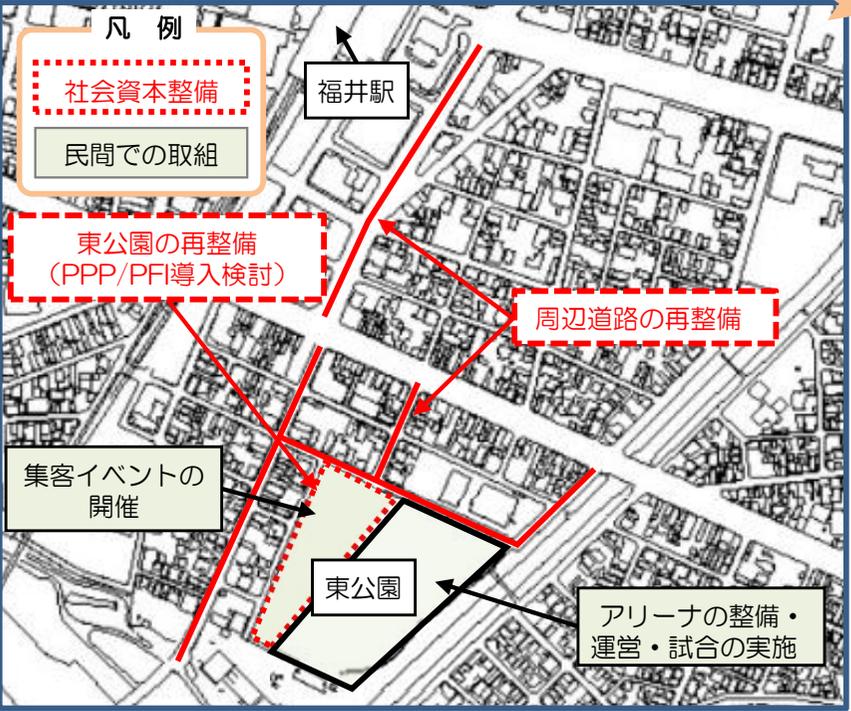


東公園の整備イメージ



- (1)社会的背景・状況の変化等（きっかけ）
- ・ 令和4年2月 東公園内にアリーナを整備することを福井商工会議所、福井県、福井市が合意
 - ・ 令和4年8月 アリーナの整備運営に関する基本構想（案）の策定
 - ・ 令和6年2月 福井アリーナ整備・運営に関する基本計画（案）の発表

- (2)民間事業者の活動・新たな投資・予定
- ・ 合同会社福井アリーナプロジェクトによるアリーナ整備（令和7年度末～令和9年度）
 - ・ アリーナ運営会社によるアリーナ運営（令和9年度～）
 - ・ 福井ブローウィングスによる試合の開催（令和9年度～）
 - ・ 福井商工会議所による集客イベントの開催（令和9年度～）
 - ・ PPP/PFI事業者による公園の整備・管理運営（令和8年度～）



- (3)基盤整備の必要性（現状の課題等）
- ・ 東公園とアリーナの一体的な利活用を図り、敷地全体を多様な人々の交流・にぎわいの場とする再整備が必要
 - ・ 東公園に訪れる人の流れや周辺道路の混雑状況を分析し、来訪者の安全確保を図るとともに、にぎわい創出につながる歩きやすい道路づくりが必要
- 密接な関連性

- (4)【調査内容】
- ①東公園（広場、園路、遊具、修景施設、休養施設、トイレ、手洗場、管理施設）再整備に係る概略設計
 - ②東公園周辺道路整備に向けた調査検討（交通量調査、導線検討、整備内容検討）
 - ③公園の整備・管理運営に係るPPP/PFI導入可能性検討

- (5)民間の活動と一体的に整備する効果
- ・ 公園の利便性向上と利用者数の増加
 - ・ 安全で快適な、ウォークブルな駅周辺空間の実現
 - ・ にぎわい交流拠点の創出と回遊性の向上により、福井駅周辺の商業エリアにおける売上げの増加